

文 獻

明治時代日鮮兩語比較論論文表

龜 田 次 郎

題

目

著 者

掲載雑誌

巻 號

年 月

備 考

日鮮兩語比較研究(文)

日本語と朝鮮語との類似

朝鮮語考

本邦の各種言語に付郎考を述べて世の眞心愛國者に質す

日韓言語之關係

日韓言語近似

東道諺文考

字 音 考

著 者	ア ス ト ン	大 矢 透	高 橋 二 郎	星 野 恆	赤 峯 瀨 一 郎	岡 倉 由 三 郎	同
掲載雑誌	大英亞細亞協會報告	人類學會雜誌	如蘭社話	史學會雜誌	日韓英三國對話卷上所載	新文藝學	東洋學藝雜誌
巻 號	二 三	四 三	三	一 二	一	四 二	二 五
年 月	三 一	三 三	三 九	三 一	五 六	六 九	六 一

此論文後に歴史地理朝鮮地に出でたりとぞ

この頃出版の『朝鮮風土』大日本商業史の中にも日鮮語比較論ありたりとぞ

本邦の數詞に就きて

日韓類語論

朝鮮古代諸國名稱考

朝鮮古代地名考

朝鮮古代王號考

朝鮮古代官名考

高句麗の名稱に就ての考

吏道

爲古吐考 附朝鮮語講究史

日本書紀に見えたる韓語の解釋

日本の古語と朝鮮語との比較

日本語と朝鮮語との關係

日本の古語と朝鮮語との比較に就て

日本語と朝鮮語との比較に就て福田君

に答ふ
諺文の起原

明治時代日鮮兩語比較論論文表

(續川)

同	吉田東伍	白鳥庫吉	同	同	同	同	同	同	岡倉由三郎	白鳥庫吉	同	大嶋正健	福田芳之助	白鳥庫吉	金澤庄三郎
哲學雜誌	日韓古史斷第一編第三章所載	史學雜誌	同	同	同	國學院雜誌	史學雜誌	帝國文學	史學雜誌	國學院雜誌	獨立雜誌	國學院雜誌	同	朝鮮月報	朝鮮月報
八八		六七八	六〇二	六二	六四	三〇	八	一	一	八四六七	四四三	一三	五	五	一
二	三	六	二	二	四	八	一	四	一	四六七	三二〇	五六	二	四	九

朝鮮の書籍

日韓語の異同

朝鮮に關する西人の研究

主格を示す本來の辭

語尾の「ハ」に就て

漢史に見えた朝鮮語

朝鮮語と日本語との關係

再び朝鮮の古語に就て

日韓語比較論及動詞論

假名の起原に就て

郡村の語源に就て

都加佐名義考

國語學刷新の時機

羅馬字索引朝鮮地名字彙略評

寧樂考

同	鮎貝房之進	朝鮮月報	三三	三三	一一
金澤庄三郎	同	帝國文學	三三	三三	一一
岡倉由三郎	帝國文學	言語學雜誌	六二	三三	一一
同	言語學雜誌	同	一	三三	二
白鳥庫吉	同	同	一	三三	四
同	同	同	一	三三	四
白鳥庫吉	同	學位論文	一	三三	一
金澤庄三郎	學位論文	言語學雜誌	一	三三	九
同	言語學雜誌	史學雜誌	一	三三	二
同	史學雜誌	法學協會雜誌	三	三三	四
宮崎道三郎	法學協會雜誌	教育	三	三三	四
金澤庄三郎	教育	史學雜誌	一	三三	九
幣原坦	史學雜誌	同	一	三三	二
金澤庄三郎	同	同	一	三三	二

日本文法論

古事記の一節に關する私疑

言語に關する韓國の遊戲

朝鮮地名字彙略評に答ふ

金澤博士の寧樂考を讀みて

「朝鮮地名字彙略評に答ふ」を讀む

法制史の研究上に於ける朝鮮語の價値

朝鮮地名字彙略評につきて再び幣原君に問ふ

寧樂考に就きて元田君に答ふ

「朝鮮地名字彙略評につきて再び幣原君に答ふ」を讀む

日本法制史の研究上に於ける朝鮮語の價値

郡村の語源に對して専門大家の御教示を乞ふ

朝鮮語と日本法制史

中田君が郡村の語源に就ての考を讀む

朝鮮意流村の地名を論じて日本古代の内治外交に關する二三の事項に及ぶ

明治時代日鮮兩語比較論論文表

(範圍)

同	單行	—	一	三
同	帝國文學	一〇	一	一
同	太陽	一〇	一	一
同	史學雜誌	一五	一	一
元田修三	同	一五	一	一
幣原坦	同	一五	三	三
宮崎道三郎	法學協會雜誌	二三	四五	五
金澤庄三郎	史學雜誌	一五	四	四
同	同	一五	五	五
幣原坦	同	一五	六	六
宮崎道三郎	同	一五	七	七
中田 薫	同	一五	七	七
宮崎道三郎	國家學會雜誌	二〇	九	七
白鳥庫吉	史學雜誌	一五	九	九
宮崎道三郎	國家學會雜誌	二三	三	一〇

後の史學雜誌(二五、七)「日本の法制史の研究上に於ける朝鮮語の價値」と同じものなり

前の法學協會雜誌(二三、四、五)「法制史の研究上に於ける朝鮮語の價値」と同じものなり

再び郡村の語源に就て

「校訂交隣須知」の新刊

朝鮮語と日本歴史

形容詞考

延言考

國語學に對する予の希望

姓氏雜攷

國語と外國語との比較研究

郡村なる語の原義

名詞の性に關する研究

四たび郡村の語源に就て

韓國古代村邑の稱呼たる喙評邑勤擔魯及び須祇の考

餘と出舉

言葉のかすく

中田君が韓國古代村邑の稱號たる喙評邑勤擔魯及び須祇に就きての考を讀む

中田 薫	史學雜誌	二五、二	毫、二
幣原 坦	同	五、三	毫、三
宮崎道三郎	東洋學藝雜誌	三九	毫、三
金澤庄三郎	教育學藝術界	一〇、四	毫、一
同	帝國文學	二、一	毫、一
同	國學院雜誌	二、一	毫、一
宮崎道三郎	法學協會雜誌	三三、三二 同、三	毫、二 毫、二
白鳥庫吉	史學雜誌	一六、二一三	毫、二一三
中田 薫	國家學會雜誌	三七	毫、三
金澤庄三郎	國學院雜誌	二、七	毫、七
中田 薫	史學雜誌	一六、七	毫、七
同	同	一六、八	毫、八
宮崎道三郎	國家學會雜誌	三三 三八	毫、三 毫、三
松村任三	東洋學藝雜誌	自三八 至三八	自毫、九 至毫、九
白鳥庫吉	史學雜誌	一六、一〇	毫、一〇

後の外國語學校及新雜誌所收
(論文)と同じものなり

日本文法講義

てにをば廢止論

韓國古代村邑の稱呼たる忽(Kol)の原義に就て

韓國古代村邑の稱呼に就て白鳥博士に答ふ

日本植物の語源

可婆根考

郡の語原

耳目鼻口

啄評の原義

日本莊園の系統

贖の字義を論じて日本支那印度古代の手形に及ぶ

家族の稱呼に關する二三の考

國語に於ける敬稱語の原義に就いて

名詞の性に關する研究(文)

活用に關する私見の一節

明治時代日鮮兩語比較論論文表 (總目)

金澤庄三郎	早稲田大學 文科講義錄	—	—	三八〇以下
廣池千九郎	同	—	—	二八〇以下
白鳥庫吉	史學雜誌	一六二	—	二八二
中田 薰	同	一六二	—	二八二
松村任三	國藝雜誌	一七二	—	二八二
中田 薰	史學雜誌	一六三	—	二八三
金澤庄三郎	帝國文學	一七一	—	二八一
同	教育學術界	一七四	—	二八一
宮崎道三郎	史學雜誌	一七一	—	二八一
中田 薰	國家學會雜誌	二〇二	—	二八一
宮崎道三郎	法學協會雜誌	二四二	—	二八一
金澤庄三郎	早稻田學報	一六二	—	二八一
白鳥庫吉	史學雜誌	一七四	—	二八一
金澤庄三郎	外國語學校 校友會雜誌	—	—	二八一
同	國學院雜誌	一三六	—	二八一

日本文は新論と題し大正二年に出版せり

これは後に出版(改題して)てにをばの附録にせり

前の國學院雜誌所收と同じものに於て只體文にせるのみなり

日韓兩國語の比較研究

日本語研究上より朝鮮語の研究（文）

日韓語比較研究小史

佐刀（郷里）の原義

てにをはの研究

日韓兩國語文字組織上に於ける聲語の影響（文）

部曲考

部曲考補遺

我が古代の法制關係語

日韓語の關係

韓語研究の急務

諺文について

阿利那禮河と新羅の議會

日韓滿蒙語の研究について

履仲紀の史に就て

宮崎道三郎	史學雜誌	自一七、 至一八、二	自一七、 至一八、二
ハイド・シイ	大日本亞細 協會報告	一、一	一、八
元田修三	國學院雜誌	一三、九	一、九
宮崎道三郎	國家學會雜誌	二〇、一〇	一、一〇
廣池千九郎	單行	—	—
金澤庄三郎	同	—	—
宮崎道三郎	法學協會雜誌	二五、三	四〇、三
同	同	三五、四	四〇、四
中田 薫	國家學會雜誌	三〇、九	四〇、九
、 生	日本新聞	—	四〇、一〇
金澤庄三郎	國學院雜誌	一四、一	四一、一
高橋龍雄	同	一四、一	四一、一
宮崎道三郎	法學協會雜誌	二六、四五六	四一、四五六
金澤庄三郎	東亞の光	三〇、二	四一、二
宮崎道三郎	國家學會雜誌	三三、一	四二、一

前出「こ」を「は」發止編の出版な
り或は四十一年か

外來語について

朝鮮古地名の二三に就いて

日韓アイヌ三國語の數詞について

勝部考

日韓兩國語同系論

敷島考

八の數を尙ぶ古習

日韓字書比較研究(規則及應用)

日韓の古地名に就いて

日韓兩國語同系論(和漢文)

言語の研究と古代の文化

日韓兩國語同系の一特點

漢字の別訓轉用と古代に於ける我邦制度上の用語

神奈備考

毛瀧利叱智に就いて

明治時代日韓兩國語比較論論文表

(龜田)

金澤庄三郎	帝國文學	五ノ一	四、一
坪井九馬三	史學雜誌	三ノ二	四、三
白鳥庫吉	同	三ノ三	四、三
宮崎道三郎	法學協會雜誌	三ノ三	四、三
金澤庄三郎	東洋協會調查部報告	一	四、七
同	讀賣新聞	一	四、七
白鳥庫吉	學習院輔仁會雜誌	九	四、三
間宮龍真	朝鮮	四ノ五	四、一
金澤庄三郎	史學雜誌	三ノ一	四、一
同	單行	一	四、一
同	國學院雜誌	六ノ一	四、二
間宮龍真	朝鮮	六ノ一	四、四
宮崎道三郎	法學協會雜誌	六ノ一	四、五
金澤庄三郎	史學雜誌	三ノ六	四、六
宮崎道三郎	東亞之光	六ノ二	四、二

後に和漢語文にて出版(後川參看)

後の「日韓古代地名の研究」はこの増補なり
前の東洋協會調査部報告所載と同じものなり
後大正十一年に單行本として出版せり

朝鮮に於ける國語問題

日韓音韻比較研究の一節

東西南北

探湯考

任那雜考 其一任那疆域考

國語の研究

肅慎考

朝鮮文字の製作に就て

任那宰の韓名「吉」の本義

朝鮮語講究について

陸奥考

母音の開合殊に「ウ」について

日鮮古代地名の研究（附文）

金澤庄三郎	讀賣新聞	不詳	四二
同	朝鮮	不詳	
同	小學	不詳	
同	神社協會雜誌	三三	四三
同	東亞之光	三三	四三
宮崎道三郎	國家學會雜誌	三三	四三
金澤庄三郎	單行	三三	四三
白鳥庫吉	歷史地理	七一	四一
林泰輔	文學界	七一	四一
宮崎道三郎	法學協會雜誌	元ノ三	四三
金澤庄三郎	朝鮮總督府單行	元ノ三	四三
同	史學雜誌	二三ノ一	四五
小倉進平	朝鮮總督府單行	不詳	四一
金澤庄三郎	朝鮮總督府單行	不詳	四三

氏の論文を彙集せるものこれを
看れば氏の論文悉く網羅せり

前の史學雜誌（二ノ一）「日韓
の古地名に就いて」を彙集せる
ものなり

附記 此の論文表は、大正五年三月親友龜田次郎氏が書信を以て私に教示せられたものにして、其の後二十餘年間私の篋底に藏したものである。其の惠を私獨りで專占すべきでないを考へ、今回同氏の許諾を得、青丘學叢に寄せて之を公にした。

昭和六年冬

今西 龍